

令和7年度 第59回 中学生の「税についての作文」

## まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『自然との共存について』

町田市立堺中学校 3学年 庄司 想昊

僕はこの夏に、祖父母のいる秋田県を訪れた。祖父母の家は市内の住宅地にある。けれど、少し歩けば田んぼが広がり、山や川も流れている、のどかな場所だ。

ある日、僕は祖父に連れられて、市街地を越えた先の山奥へと向かった。滝を見せてくれるらしい。車もほとんど通らない、山の一本道を車で走っていると、看板を見つけた。「この先熊出没注意」と書かれてあった。僕は熊を見たことあるかと祖父に尋ねると、今年はまだだが、去年は見たと言った。写真も見せてくれた。一頭の熊が写っていた。熊が本当に近くににいるかもしれないと思うと、少しだけ怖くなった。

その夜、熊について調べた。調べていくうちに、熊の狩猟や、駆除には税金が使われていることを知った。国や自治体は、獣害対策の一環として、熊の駆除や捕獲に対する報奨金制度を設けていることがあり、これらは自治体の予算や補助金で賄われている。また、熊の出没を防ぐための忌避剤の設置場所の注意喚起や、住宅用地特例による税負担の軽減など、市民が熊の被害に遭わないための直接

的、間接的な取り組みが行われている。更に住宅の周囲に熊が侵入できそうな隙間や、食べ物がある可能性のある場所がないか確認している。このように、熊と税金は間接的に関連していることが分かった。

また、新たな取り組みとして、秋田県にかほ市では、ふるさと納税を活用した「クマといい距離プロジェクト」を始めた。令和5年、異常なほど熊の目撃と人身被害があつたにかほ市で、「捕獲、駆除されるクマを少しでも減らしたい。」「市民の安全を守りたい。」「この想いを形にするため、始めたプロジェクトだ。限定の返礼品に寄付すると、寄付一件あたりにつき寄付金の一部（定額千円）がプロジェクトに活用されている。

環境省は、二〇二六年度予算の概算要求で熊を含む「指定管理鳥獣」の対策に充てる自治体への交付金に、三十七億円を計上する方針を固めた。人身被害が相次ぐ中、自治体の専門人材育成や、市街地への出没防止を支援する。

僕は、朝早く起きて田んぼの周りを散歩した。熊による被害が増えるたび、その対策のために使われる税金も多くなってしまふ。だから、人と熊が接触しなくてすむような対策ができれば、税金も減らせるのではないかと思った。この景色を、自然と共に丁度良い関係を保ちながら守っていききたい。